

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570300709		
法人名	有限会社 愛宕福祉サービス		
事業所名	グループホーム 愛宕荘	ユニット名	1階
所在地	宮崎県延岡市古城町4丁目634番地3		
自己評価作成日	平成28年8月1日	評価結果市町村受理日	平成28年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokansaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kanistrue&izvosvoCd=4570300709-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年9月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るい笑顔と挨拶で、目配り・気配り・心配りをモットーにしている。また、入居者様の訴えは否定せず全て受容している。環境的に自然がいっぱいで、四季折々の行事や食事を楽しんでいただいている。家庭的な雰囲気を心がけ、できることはお手伝いしていただいている。①認知症になっても、舞台上に立って歌ったり踊ったりすることができるとみなさんに知っていただくため、「福祉ふれあい歌と踊りの祭典」を行っている(13年間継続)。入居者様、姉妹園の愛宕幼保園園児、一般の方150名ほどの参加があり、交流を深めている。②毎月、荘便り、日常生活・行事等のスナップ写真を発行し、ご家族(遠方の方にも)に発送している(14年間継続)。③毎朝、入浴に関係なく、全員の陰部清拭を行っている。④自家製のヨーグルトを提供している(13年間継続)。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10周年を記念してエレベーターや2階に多目的ホールを増築し、利用者の避難だけでなく、地域の方にも避難場所として提供している。舞台もあり、ボランティアの来訪やホームの行事などにホールを活用している。系列の幼保園と交流し、また、毎年利用者も参加して「福祉ふれあい歌と踊りの祭典」を文化センターで開催するなど、認知症に対する啓発と利用者の楽しみを支援している。看取りの経験もあり、日中は看護職が必ず勤務し、夜間は要請に応じて出勤・対応し、重度化や終末期に向けた方針を共有・支援する体制を構築している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	文章化して掲示している。職員会議、職員勉強会時には理念に基づいたケアが実践できるよう、常に話し合いをしている。		設立時からの理念を大切に、職員会議等で共有に向けての話し合いをしているが、意義について、職員が十分理解しているとはいえない。	地域密着型サービスとして、地域を意識し、ニーズに沿った理念を全職員で話し合い、作成した理念を共有し、実践することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区に入会し、区の情報を得ている。日頃からご近所付き合いとしての関係を心がけ、夏祭りなどの行事にもご招待している。緊急災害時には、2階多目的ホールを避難場所として提供している。		地域の情報を得たり、地域に情報を発信して相互に交流がなされている。多目的ホールを地域の避難場所として提供している。系列の保育園と定期的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表者が地域の研修会に参加し、認知症についての相談を受けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施しており、その結果を職員会議で報告し、話し合いをしている。地域の方、ご家族に意見や感想をいただき、問題点が解決できるよう取り組んでいる。		利用者や家族をはじめ、出席者から多岐にわたる意見や感想が活発に出されている。夜間想定訓練の実施を提案され、実践している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	計画作成担当者が窓口になり、積極的に問い合わせや相談をしている。庄便りにて日頃の取り組みなどを伝えている。		評価結果や毎月の庄だよりで市に報告している。いつでも相談できる関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について正しく理解するために、職員会議で話し合いをしている。言葉による制止や禁止の対象となる具体的な行為について理解している。		資料を作成し、勉強会を行い、言葉遣いなど、職員の意識づけを行い、気づいた時点で注意している。身体拘束についてやむを得ない場合は、期間を限定して家族の同意を得て、早期に拘束を解除している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員勉強会時に虐待について学ぶ機会を持ち、常に注意を払い、防止に努めている。言葉使いや声のトーンにも圧迫感を感じないように心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解し、活用できるよう支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時にはご家族の不安や疑問を尋ね、十分説明し、理解、納得していただいている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に入居者様の声に耳を傾け、意見、要望を聞き取り、解決している。毎月の荘便りで理事長の携帯番号を知らせ、相談を受け付けている。窓口に意見箱を設置している。		利用者や家族が、職員、管理者、代表者に意見や要望をいつでも表出できる体制を整えており、出された意見や要望を運営に反映できるよう話し合っている。居室の空調については検討中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、勉強会で、全員が発表する時間を設け、意見や提案を出し合っている。管理者は職員が意見を出しやすいよう、雰囲気づくりに気を配っている。		管理者が、代表者と職員の間に入って調整している。代表者は、できることとできないことを回答している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務年数、所持資格、役職等について把握し、給与水準、やりがいなど、職員が向上心を持って働けるよう配慮している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員が事業所外の研修にも積極的に参加できるように、機会の確保や勤務体制に配慮している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、他施設の方と交流、意見交換を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時にご本人様、ご家族様より不安、要望等の相談を受け、親身になって関係性を築いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時にご本人様、ご家族様より不安、要望等の相談を受け、親身になって関係性を築いている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時にご本人様をよく観察し、ご家族様からの情報も得ながら対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除機がけ、洗濯物干し、たたみ、食器洗い、台拭きなど、できることは一緒にしていただいている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に話しやすい雰囲気作りを行い、ご本人様とご家族様がよりよい関係を築けるよう支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室への外出支援を希望される方がおられ、支援している。また、定期的に友人の訪問がある方もおられ、関係が途切れないよう支援している。	以前住んでいた地域へのドライブ、福祉タクシーを利用しての七夕祭り見学など、なじみの関係が途切れないように支援している。友人が野菜などを持参し、来訪している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に職員が目配り、気配りを行い、仲間外れや居室にこもることがないように気をつけている。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もサービスが必要な時には相談に乗り、病院等の紹介等を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々支え合う生活を通して、ありのままを受け入れるようにしている。ご本人様の希望、意向に沿えるよう努めている。親交のある方との面会、外出などを支援している。		全職員で一人の利用者にセンター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を実施している。本人が思いや希望を表出できるよう、雰囲気作りに気を配り、選択できる質問を用意して思いや意向を把握している。困難な場合は日々の仕草や表情からくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様より生活歴を書いていただいたり、聞き取りを行い、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々人の現状を把握し、その方に合った一日の過ごし方をさせていただいている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員はご本人様、ご家族様と話し合い、担当職員から情報を収集しながら、介護計画を作成している。毎月の職員会議、職員勉強会でケアの在り方について話し合い、その内容も反映している。		担当制になっており、職員は日々の気づきをメモし、介護支援専門員に気づきや意見を伝えている。介護計画は介護支援専門員から職員に伝達されているが、職員が計画書を見る機会がほとんどない。	職員も介護計画作成に参加し、チームで介護計画を作成し、介護計画に沿ったケアを提供することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の情報を職員間で共有しながら、日々のケア、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援、病院受診など、希望はあるが、ご家族様が対応できない場合は職員が対応している。			

宮崎県延岡市 グループホーム愛宕荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや民生委員等と協働し、支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様が希望される医療機関の受診も支援している。	協力医がかかりつけ医になっており、2週間に1回訪問診療を受けている。往診や電話での対応もあり、適切な医療を受けられる体制を整えている。専門医などの他科受診は原則家族対応であるが、できない場合は職員が対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師が1名、准看護師が4名いる。日中に常時1名が勤務するような体制をとり、異常の早期発見に努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に行き、病院関係者と話し合いを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に説明し、家族の希望や考え方を確認している。看取りの希望がある場合には積極的に関わり、話し合いを重ねながら文書化することとしている。医療機関の協力も十分にある。	「重度化した場合および看取りに関する指針」を作成し、入居時と終末期に意思を確認している。看取りの経験もある。日中は看護職員を一人配置し、夜間は吸引や看護処置が必要な場合は看護職が出動できる体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、応急手当や初期対応に備えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災緊急連絡網を作成している。近隣の方々にも協力が得られるように声かけを行っている。台風などの災害時は、夜勤者以外の職員が宿泊待機している。災害時の緊急避難場所(2階多目的ホール)を確保している。懐中電灯、自家発電機、食品、飲料水などを備蓄している。	避難訓練は近隣の住民にチラシを配布し、協力を依頼している。食料などは倉庫に備蓄し、2階の多目的ホールを緊急避難場所としている。		

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいに気をつけるだけでなく、声のトーンや速さにも気を配り、年長者としての誇りを傷つけないようにしている。		居室に空調設備がないため扉を開放している。また、扉に透明ガラスがあり、廊下から居室内が見えてしまい、プライバシーが確保されていない。言葉遣いについて勉強会で話し合っているが、職員間の会話に配慮にかけ言葉遣いがみられることもある。	設備面で改善が困難な場合でも、プライバシーの確保に向けた工夫を期待したい。言葉遣いや声かけについて更なる配慮を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が思いや希望を表せるよう、雰囲気づくりに気を配っている。また、選択肢を与えることで自己決定できるよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間など、一人ひとりの生活のペースに合わせている。食事や食べやすい時間に提供できるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。美容室への外出、希望により化粧水、乳液、洗顔料等の購入も行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節やイベントに合わせて、手作りの料理を提供している。手伝いができる方には下ごしらえを手伝っていただいている。		食事介助と見守りが必要な利用者があるため、職員は利用者と共に食事をしていない。介助時の言葉かけも少なく、食べることへの意欲を引き出すような場作りが十分とはいえない。夕食は外注の弁当になっており、弁当の形態では摂取することが困難な利用者には、ホームで手作りの食事を提供している。	一人ひとりに合わせた言葉かけで楽しく食事ができるような工夫を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表に食事、水分摂取量を記録し、把握をしている。それぞれに合った量、食事形態で提供し、食欲低下時には好みの食品を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず声かけをし、行っている。口臭のある方は洗口液を使用している。夜間は義歯を預かり、洗浄液に浸けている。			

宮崎県延岡市 グループホーム愛宕荘(1階)

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、トイレ誘導を積極的にやっている。夜間は安眠確保を優先し、個人に合わせてオムツとトイレ誘導を組み合わせた支援を行っている。		勉強会で個々の排せつパターンを把握し、トイレでの排せつを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康管理表に排便状態を記録し、把握している。便秘気味の方は便通薬を定期的に服用し、腹部マッサージ、摘便を行っているが、それでも排便がない場合には坐薬(便秘薬)を使用している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めて(火・木・土)行っているが、希望や体調に合わせて個々にそった支援をしている。拒否のある時でも時間を置いて声かけし、入浴を促している。職員2名対応で、安全にゆっくりと楽しんでいただいている。		入浴曜日は決まっているが、1階と2階で曜日を変えているので、希望があれば毎日入浴が可能になっている。入浴ができない状態の利用者には清拭で対応し、清潔の保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、午睡の時間を設けている。また、それぞれの希望に応じて随時休んでいただいたりもしている。朝、起床の声かけを行うが、覚醒されない場合は起床時間を遅らせるなどの工夫をしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	3回確認を心がけている。全職員が個人個人の服薬を把握しており、職員が必ず見守り、服用介助している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レベル低下のため、できることが少ない方もいるが、その方に合った支援をしている。イベントで趣味の舞踊や楽器演奏などを披露していただいたり、日常生活では家事の手伝いをしていただいている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に近所を散歩したり、外気浴をしていただいている。季節の行事や姉妹園あたご幼保園などのイベント時には外出支援している。ご本人様の希望があり、職員が対応できない場合はご家族様に協力していただくこともある。		ホーム内や近所を散歩している。花見や市内のイベント、幼保園のイベントなど、外出の機会を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により支援しているが、現在はお金を所持されている方はいない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、観葉植物等を置いている。毎月、季節に合った壁絵を作成し、装飾している。フロアはソファで仕切り、車椅子の移動にも十分な広さが確保されている。共用空間の清潔保持に努めている。		温度や湿度を適宜調節して、快適に過ごせるよう配慮している。季節の花や観葉植物を置き、壁には作品などを飾り、季節感を味わえるような工夫がなされている。フロアスペースは、歩行や車椅子の移動にも十分配慮した広さになっており、ゆっくりくつろいで過ごすことができるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子などで自由に過ごしていただいている。入居者様同士、馴染みの関係ができており、座席にも配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品物を持ち込み、その人らしく生活して頂いている。遺影を置かれている方には、命日にお供え物を提供している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせた福祉用具の利用、安全な環境づくりに努めている。			